

CONTENTS

〈巻頭言〉 21世紀めざした研究所づくり	中村 雅秀 ……1	経済学における「儒学の方法」の 長所と短所	小野 進 ……8
技術と人と経営 —新日本製鐵大分製鐵所見学記—	青木 雅生 ……2	中古ゲームソフトの流通と 著作権法	紀國 洋 ……9
税制と国籍	三木 義一 ……3	規範理論と進化経済学	松井 暁 ……10
複数空港立地とその運営方法	竹林 幹雄 ……4	ITを応用したeビジネスの 研究を基軸にして新たな展開を 三極基軸通貨体制?	奥村 陽一 ……11 佐久間 潮 ……12
京都における 長距離ロードレースの歴史	岡尾 恵市 ……5		
予測分析における大学の役割	我妻 伸彦 ……6		
京滋企業のケース・ライティング	徳田 昭雄 ……7		

巻頭言

立命館大学 社会システム研究所
所長 中村 雅秀

21世紀めざした研究所づくり

21世紀社会の到来を目前に、人類社会はかつて経験したことの無い大きな変化に直面しています。経済社会のグローバル化と科学技術の進歩が、IT革命に見られるように商慣行から庶民生活、犯罪のあり方にまで大きな影響を及ぼすなかで、国際的にも国内的にも新しい社会に適合的な社会システムの開発とこれに貢献すべき学術研究の重要性をあらためて提起しているのです。

現在ほど社会における研究機能の活用が必要とされる時代は、かつてなかったとあってよいでしょう。にもかかわらず、大学における研究機能は必ずしも社会が必要としているテンポと形で進捗、変化しているわけではありません。教育機能、人材養成についてももちろんです。歴史的にいえば「断絶は継続の形式にすぎない」が、必要とされる社会的変化のためのシステムの改変は「断絶」と見えるほど大胆でなければなりません。社会システム研究所も当初の「創設の時代」から、こうした時代の要請に応える研究活動の出発点としての研究所づくりの時代に入っているものと考えられます。

社会システム研究所がこうした役割を担っていくため

には、現にある設備、研究条件、研究機会等をいっそう活発に活用するだけでなく、リエゾン活動との連携、大学院改革を始め学内の教学システム全体、とりわけBKC教学の戦略的展開との有機的結合を計る必要があります。研究活動の社会的認知と高度化社会に有意な人材養成こそが高等教育・研究機関としての大学の本来的役割であり、今ほどあらためてその再構築が期待されている時代はないのではないのでしょうか。

本年度は、9つのプロジェクト研究（継続6件、新規3件）を中心に研究活動の進展を計ることとなっていますが、科学研究費補助金による研究、受託研究など社会的研究機能とのいっそうの結合が望まれることから外向型研究活動の充実に力点をおきながら、もうひとつの重点である大学院教学の早急かつ質的拡充に向けた施策の展開を、研究所全体で支える体制の確立を計っていきたいものです。

(経営学部教授)